

資料No. 5

ゆがわら海藻プロジェクトについて

ゆがわら海藻プロジェクトについて、今年度（2年目）の具体的な事業計画、今後のロードマップを報告するもの。

1 1年目実績を踏まえた今年度（2年目）の養殖品種

- (1) アカモク：本海域と最適の相性を確認。
- (2) ハバノリ：一定の成長を確認。発芽成長を阻害する付着物が課題。
- (3) モズク：付着物阻害による生育不良のため、本町海域での養殖は厳しいと判断。
→今年度は、有望な「アカモク」と「ハバノリ」の2品種で実証

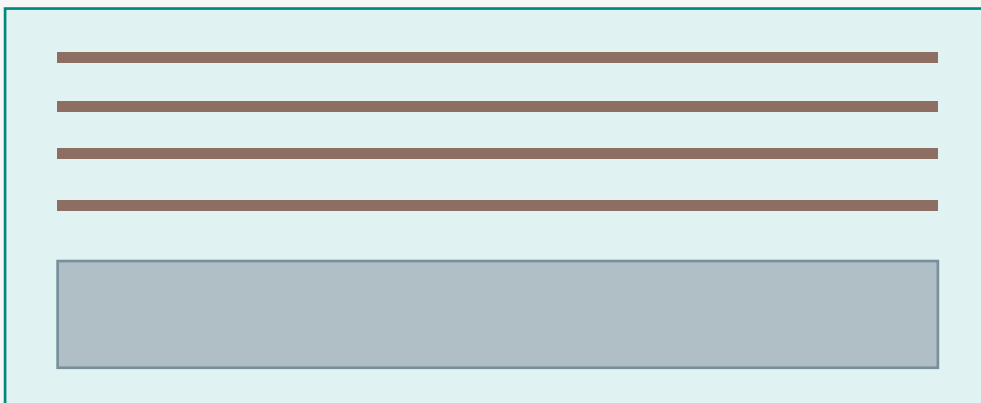
2 今年度（2年目）海面養殖中規模実証計画（福浦沖に集約）

養殖の規模を拡大し、収量、作業工数、採算性を検証します。

- (1) 養殖規模（想定面積：約 100m×20m） ※漁業者と調整の上で確定
 - ・アカモク：100m ロープ × 最大4本程度
 - ・ハバノリ：10 網程度
- (2) 主な採算性の検証事項
 - ①目標収量の確保（想定収量に達するか）
 - ②作業工数の算出（必要な人数・時間、人件費、その他経費の把握）
 - ③品質と市場流通性（流通可能な品質の可否・適正な販売価格の検証）

福浦沖試験海域イメージ

規模：約 100m × 20m （1 海域に集約）



上部：アカモク 100m ロープ × 最大4本
下部：ハバノリ 改良型浮網 × 10 網

3 海面養殖実証事業概算費用

(単位:千円)

品目 / 項目	数量	金額	備考
種苗生産	2 種類	2,800	アカモク、ハバノリ
海面養殖整備費	1 式	2,200	中規模養殖の資材（網等）・設置
生育管理	1 式	1,770	
収穫	2 種類	1,100	実地での収穫支援
データ整理・分析	2 種類	2,200	生育データ・コストデータの算出
旅費交通費	1 式	200	
報告・次年度計画	1 式	750	報告書・次年度計画作成
合計		11,020	

4 今年度（2年目）海面養殖スケジュール

期間	実施内容
11 月～12 月	福浦沖への養殖設備・資材の設置（福浦漁業協同組合と連携）
12 月～1 月	海面栽培
2 月～3 月	収穫、データ測定・分析

5 温泉熱を利用した青のりしょうゆ製造の進捗（予算外）

温泉熱を用いた発酵プロセスについて、今年度は次のステップ（設備規模の拡大）を計画していますが、現在は以下の調整を進めています。

- (1) 設備規模の拡大：より規模（容量）を広げた設備による製造実験を計画
- (2) 設置場所の調整（課題）：安定した湯量と、適切な「温湿度管理」が維持できる温泉設備の確保及び設置場所について調整中

6 ロードマップ

- 1 年目（R7）：小規模実証による適応品種の確認
- 2 年目（R8）：養殖・収量・コスト・販売の採算性検証、温泉熱利用計画の調整
- 3 年目（R9以降）：海域拡張（量産）、現地生産事業者確立、販路確立による自立的な事業運営

7 全体の方向性

海藻養殖については、アカモクとハバノリの養殖技術を確立する。その上で、収穫量・コスト・販路を検証し、地元漁業者を中心に継続できる事業へ段階的に育てていく。事業化を目標としながらも、地域の実情や技術的課題を踏まえ、中長期的な視点で柔軟に取り組む。

温泉熱を利用した青のりしょうゆ製造については、設置場所について事業者と引き続き、協議・連携を行っていく。